

平成25年度  
10年経験者夏期研修会（西日本）  
実施報告概要

本年度の10年経験者夏期研修会（西日本）は、8月5日（月）～8月7日（水）の3日間、京都市の同志社大学今出川キャンパスで開催され、53名が参加した。

1日目には開会式に続いて、中村中学高等学校、永井哲明副校長の講演「生涯学習とキャリア教育を再考する」が行われ、「ゆとり世代」と呼ばれる若者の意識や、企業の求める人材、そしてキャリア教育が必要となった背景と課題などについて詳細な説明がなされた。

その後、参加者及び運営委員を交えて夕食を兼ねての経験交流会が催され、限られた時間ではあったが受講者にとってはコミュニケーションの場として有意義なひとときとなった。



2日目は、午前中は同志社大学社会学部、井上智義教授による講演「多様なニーズを持つ生徒とのコミュニケーション」では、指導の難しい子どもへの理解と対応について話していただいた。

午後からは、当研究所の山崎吉朗専任研究員による講演「私立学校の現状と未来」が行われ、私学をとりまく厳しい社会状況や、保護者の求めているものについての解説がなされた。

3日目の午前中は、弁護士の日本大学、堀切忠和准教授による「危機管理と保護者対応」の講演が行われた。学校現場には、さまざまな事故や危険の可能性があり、また近年、一部保護者による学校へのクレームも増えており、それらに適切に対処する必要性を堀切氏は強調していた。

また、午後からの総合討議では、少人数のグループに分かれ、指導助言者のもと、生徒指導や学習指導についての協議を進めた。

閉会式では、当研究所の中川武夫所長による研修会の総括を交えた閉会挨拶の後、参加者代表に修了書が授与され3日間の研修会は終了した。

